

西銘復興大臣年頭訓示

令和4年1月7日（金）11時30分～ 於）復興庁記者会見室

皆さん、新年あけましておめでとうございます。

改めて11年前のことを振り返ってみますと、私は国会落選中の身で、1人の国民として岩手県宮古市の田老地区に入ったことを振り返っております。

地元に戻っております年末に、仲井眞前知事と話をしましたら、大震災の折は沖縄県知事を先頭に、対策協議会200あまりの団体を作って、地元に入って、沖縄県に避難を希望する方を募ったというお話等を聞きました。当時1300人あまりの避難者を沖縄県の公営住宅で受入れ、あるいは運賃も県が支援をしながらという対策を聞きながら、11年経ったんだなという思いで改めて痛感したところでもあります。今現在でも、県内、沖縄県には180名あまりの避難者がおられます。

私も復興大臣に就任して3カ月が過ぎました。皆さんにお支えいただいていること、心から感謝を申し上げます。

いよいよ今度の国会では、地元の希望、要望の強い国際教育研究拠点の法案を出していかなければなりません。また、昨年末に決定した行動計画に基づいて、ALPS処理水の風評払拭に政府一丸となって取り組まなければならないということも迎えます。

私自身も先頭に立って、被災者に寄り添いながら現場主義に徹して、スピード感を持って皆さんと一緒に、チーム復興庁としての仕事をしていくつもりでおります。どうぞ皆さん方も、このチーム復興庁のマインドを全面に押し出して、今年1年も全力で頑張っていこうではありませんか。

新しい年を迎えて気持ちを新たに、皆さんと一緒に全力で復興に向けて頑張ってもらいたいと思いますので、どうぞ今年1年よろしくお願ひしたいと思います。

結びになりますが、何事も健康一番でなければいい仕事はできないと感じております。どうぞ健康に留意され、被災者に寄り添って現場主義に徹して、今年1年頑張っていこうではありませんか。今年もよろしくお願ひします。ありがとうございます。

（以 上）